

特産農産物導入支援報告 シリーズ5

「ソバージュ栽培[®]」ミニトマト

「採りつきり栽培[®]」アスパラガス



▲きめ細やかな巡回指導

多摩市が新しい特産農産物となることを目指してミニトマトやアスパラガスを栽培するようになってから、早6年が経過しました。季節もの野菜でありながら、比較的長期間出荷が可能になっていることから、消費者のみなさんの目に触れる機会も増えてきていることと思います。収穫量の増大をねらって大規模な作付けを行う農家も少しずつ増え続けています。

令和4年度の採りつきり栽培[®]アスパラガスの状況について報告します。

●新規栽培農家の増加

令和3年度に比べ、新規採りつきり栽培[®]アスパラガス栽培農家が6件増え、明治大学の巡回指導の下、順調に生育していることを確認しました。一般的に採りつきり栽培[®]アスパラガスは病気などに強い栽培方法とされていますが、良好な土壌状態の農地との兼ね合いもあってか、驚くほどの生育を見せている圃場が多くあり、収穫時期が楽しみです。

●栽培2年目以降の状況

初年度に素晴らしい収穫成果を見せた圃場でも、2年目以降の栽培では、病虫害対応に苦慮する状況が散見されました。

古い株の管理方法の不備や天候不順から消毒作業が追い付かずに病虫害を誘発させてしまった事例があり、種々のケースについて農家同志の情報を共有して対応策を検討しました。

収穫量が心配されることもありますが、春先には元気で食味のよいアスパラガスをみなさんのお手元に届けられるように、ていねいに栽培を続けていきます。

(農業委員 青木 幸子)



▲広大な試験農場



▲トラクター必須の農場の広さです



▲試験栽培でも収穫までの手入れは欠かせません

●土地取得のあらまし
今回紹介するのは、多摩市と稲城市にまたがる連光寺・若葉台里山保全地域内の、農業公園づくりに向けて活用を始めている地域です。
ここは、保全地域に指定されているため、開発が制限されている場所ですが、東京都と共に土地を取得し、多摩市で農業を主体とした公園を作るために、令和4年から、試験的に一部を開墾し、作付けを開始しました。

●保全地区としての性格
この保全地域は、丘陵地の谷戸地形に林や湿地など、多様な自然環境が組み合わさっており、湿地にはキバナギガイ・ミズコハクガイなどの希少な貝が生息しています。多摩市側の地区は、高台部分の水源域にあたるため、水質環境への影響を考慮し、農薬などを使わない環境保全型で、部分的に試験栽培を開始しました。

●農地利用について
農地としては長年使われていなかった土地を含むため、開墾しても、どの様な作物の栽培が適しているのかわからない中、スタートです。耕耘し、ジャガイモ・枝豆・サツマイモなどの作付けを行います。

●今後の予定
今後の活用方法について、市民農園や体験農場のようにしていくのか、収穫した野菜を販売して運営していくのかなど、活用に関する検討会が開催されており、活発な意見交換が行われています。
里山、谷戸の自然や生態系は、畑や田んぼがある事で多様性を増していきます。
令和9年度に、農業公園として本格的な利用開始を目指しています。

(農業委員 増田 実生)

「農」探訪... 農地を訪ね、農に携わる人々の心の声を聴く...

多摩市発 始まる 連光寺六丁目 農業公園づくり 試験事業スタート!

連光寺地区に、自然保護の観点から、東京都と多摩市で取得した土地のうちの一部を、農業公園として活用するプロジェクトが開始しました！
今回の「農」探訪では、本プロジェクトについて紹介します。



▲農地の活用法をみんなで考えます



▲試験作物の植え付け作業